



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



一層の評価向上を目指して

歯学部長 宮崎 隆

平成22年4月から歯学部長に再任されました。歯学部を取り巻く環境が悪化している中で、これまで以上に職員が一丸となって、本歯学部の評価を向上し、大学の理念である優れた医療人育成に全力をつくす覚悟です。



教育改革については、昨年度は卒業時の臨床能力を担保するコンピテンシーを制定し、臨床実習終了時の学生に対して臨床能力を総合的に評価する試験(今後本学では iOSCA と呼ぶことにしました)を成功裏に実施しました。今年度も引き続き、診療参加型臨床実習の充実と評価の改善を進めていきます。

大学の教育目標は、4学部連携のチーム医療の実践です。1年次から継続する学部連携 PBL に加えて、4学部の臨床実習生が本学の8附属病院(歯科病院を含む)の病棟で、チームを作って実地に病棟実習をする計画が着々と進められています。これは、国内はもとより世界でも類の無い試みであり、歯学部では、医系総合大学の本学でなければできない教育ですので、成功に向けて最大限の努力をいたします。

また、歯科を中心にしたチーム医療の立場からは、医学部附属病院における歯科の役割が重要です。歯科病院に昨年度地域連携の拠点として開設した総合歯科を中心に、現在稼働している昭和大学病院、藤が丘病院、烏山病院の歯科の機能強化を図ります。また、本年度は、事業計画で横浜市北部病院に歯科を設置することが承認されたので、できるだけ早い開設を目指して準備に入ります。口腔ケアセンターについても、さらなる充実を図ります。今年度から、各病院歯科と口腔ケアセンターを学生臨床実習と研修に本格的に活用することにしました。

一方、第103回の歯科医師国家試験の結果は、本学としては不本意な結果に終わりました。他大学に比べて6年次の留年生が少なかったことは事実ですが、新卒者が19名不合格になった事実を真摯に受け止め、学生の将来のために、きめ細かい対策をして合格率を向上させることが急務と考えています。

今年度から文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に、「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点形成」プロジェクトが採択されま

した。進行中の「口腔癌プロジェクト」とともに、閉塞感のある歯科界に新しい歯科の需要を切り拓く可能性を示すものです。これまで以上に、歯学部・歯学研究科の総力を挙げて取り組んで行きましょう。

国際交流についても、今年度はさらに充実を図る予定です。特に、本年の7月から半年間、交流校である米国の南カリフォルニア大学から口腔内科学のクラーク教授と障害者歯科学のマリガン教授を招聘し、共同研究だけでなく、学部学生や大学院生を対象にした講義やセミナー、さらに、本学が力を入れる分野である「特別な配慮の必要な患者の歯科治療」に関するワークショップを開催し、本学の教育と臨床の充実を図る予定です。

科学研究費補助金が内定しました

研究活動委員会 上條 竜太郎

去る4月11日、文部科学省並びに日本学術振興会は、平成22年度科学研究費補助金の交付内定を公表しました。昭和大学全体では採択件数181件、採択金額は2億1,642万円で、件数では昨年度と比較して17件の増加でした。歯学部の採択状況は下表の通りで、採択件数は87件、採択金額は1億1,345万円でした。採択金額は昨年度と比較して1,045万円の減額です。種目別では、基盤研究Cと若手研究Bの新規採択件数が減少し、それに伴い内定金額も減少しました。一方、歯学部の採択金額は、昭和大学全体の採択金額の51.7%にあたります。歯学部が少しでも多くの研究費を獲得することは、歯学部の研究活動を円滑に維持するために必要であることはいまでもありません。今秋の科研費申請に際しては、申請資格をお持ちの先生は積極的にご申請下さいますようお願い申し上げます。

研究種目	平成21年度			平成22年度		
	採択件数		内定金額	採択件数		内定金額
	新規	継続		新規	継続	
基盤研究A	0	0	0	0	0	0
基盤研究B	1	3	17,200	1	3	18,000
基盤研究C	14	21	45,000	10	31	41,600
若手研究B	20	15	54,000	15	22	48,900
若手研究スタ	3	4	7,950	申請中	3	2,850
萌芽研究	2	0	2,900	0	2	2,100
合計	37	43	123,900	26	61	113,450

(内定金額は新規・継続の合計で、単位は千円)
(採択金額は直接経費のみ)

D6 選択実習を体験して(北海道医療大学歯学部う蝕制御治療学)

D6 松本 怜奈

私は6年生の選択実習で、北海道医療大学に行きました。希望理由は、昭和大学と8大学交流でつながりのある大学であり、どのような研究や実習が行われているのかを知りたいということと、慣れない環境の中で自分がどのくらい成長できるのか、何を吸収できるのか、また昭和大学だけでは学べない事をどのくらい学べるのか試してみたいという事です。

北海道医療大学には、歯科内科クリニックと歯科病院の二カ所の病院があり、それぞれ一週間ずつ実習することになりました。

はじめの一週間は歯科内科クリニックで実習することになりました。北海道医療大学のポリクリは6年生の6月までなので、この時期に保存科をまわっている6年生と一緒に外来のアシストや、模型実習などを行いました。

北海道医療大学には、う蝕検知液でう蝕部が染色される人工歯があり、実際にう蝕検知液を用いて実習することができました。

2週目はあいの里にある歯科病院で、ここは患者数も多く、先生方も忙しそうにしている、私も積極的に診療のアシストなどを行いました。ここでは口腔外科の手術や訪問診療、摂食嚥下外来など様々な科を見学させていただきました。

2週間を通して私が思ったことは、この時期に他の大学や病院を見学することが、将来の自分のためになり、大きな糧になるということです。昭和大学で一生懸命学ぶことも大切ですが、北海道医療大学で過ごしたこの2週間は、知識だけではなく自分の可能性も大きく広げることができました。

この2週間の実習を支えてくださった昭和大学の先生方、北海道医療大学の先生方には本当に感謝しています。ありがとうございました。



D6 選択実習を体験して(信州大学附属病院口腔外科)

D6 西牧 史洋

ポリクリを終えた6年生は春に2週間学外研修施設に行き、そこで臨床実習を過ごすことが任意に選択できます。6年生はそれぞれの理由から多くの方がこの学外実習に参加しました。私は4月12日から2週間、長野県松本市にある信州大学医学部附属病院内の特殊歯科

口腔外科に学外実習に行ってきました。

私がこの学外実習、そして実習場所として信州大学を選択した理由は大きく3つあります。

1つは、実習先が医学部にある歯科であるということ。医学部にある歯科ではどのような治療を行い、どういった患者さんが来られるのか、そういったことを見学したいと考えました。

2つ目は、信州大学病院が私の地元である松本市にあることです。これにより実家からの通学が可能になり金銭面での負担も少なくなります。また、卒後研修先としても一度見学してみたかったという理由もあります。

最後の理由としては、全く自分のことを周りが知らない、いわゆる「アウェー」の環境下に自分を置いて自分の成長を期待したことです。ポリクリでは、常に同期の仲間がいて、その仲間にかかり頼っていた部分がありました。今回の実習はそういった自分を成長させるよい機会であると考えました。

以上の理由から私は学外に出ましたが、その成果は十分にあったと思います。信州大学では多くの口腔悪性腫瘍の患者さんを見ることができました。また、自分を「アウェー」の環境に置いたことで「教えてもらう」から「自ら学ぶ」が実践できたと思います。そして、私の故郷である松本という土地はすばらしいということを再確認できました。目の前に広がるアルプスは壮大です。みなさんぜひ松本に遊びに行ってみてください。



「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に歯学研究科の研究課題が採択されました

歯学部研究活動委員会 上條 竜太郎

本学歯学研究科は文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に応募し、この度採択されました。本事業は私立大学で、先端的な研究で今後の発展が期待できる研究や、優れた研究実績を有し今後も継続的に発展が期待できる研究について、その研究基盤形成を支援し、当該分野における世界的研究拠点の育成を目指すものです。歯学研究科の研究課題名は、「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点形成—アンチエイジングに貢献する新たな付加価値の創生—」で、研究代表者は宮崎隆歯学研究科長、研究期間は5年間(平成22年度～26年度)です。

今回の採択を受け、歯学部は文部科学省の補助金により、今後3年計画で高度先進研究機器の導入を図り、研究基盤の整備を進めます。

英文 Newsletter vol. 3 発行

広報委員長 井上 富雄

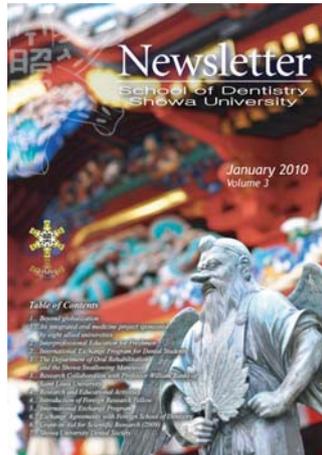
歯学部英文広報誌 Newsletter 第3号が発刊されました。表紙は「高尾山 天狗」で、日本らしさの中にもインパクトがあるものとなりました。

掲載記事の内容は、宮崎学部長の巻頭言、8大学(福岡歯科大学、北海道医療大学、岩手医科大学、神奈川歯科大学、鶴見大学、福岡大学、九州歯科大学および本学)による戦略的大学連携支援事業、1年生4学部合同PBL、学生国際交流プログラム、口腔リハビリテーション科による嚥下障害治療の紹介、口腔解剖学教室 野中講師のセントルイス大学 William Banks 教授との共同研究、歯科補綴学教室の紹介、韓国からの客員研究員の紹介、国際交流センターの活動、南カルフォルニア大学からの選択実習生の受入、科学研究費補助金等の競争的外部研究資金の獲得状況、昭和歯学会の学会誌である Dental Medicine Research 誌の紹介です。

Newsletter 第3号は海外学部間提携校や国内の8大学交流校を始め、昭和大学医・歯・薬・保健医療学部と富士吉田教育部、さらには附属病院などに配布すると共に、ホームページ(以下アドレス)

http://www10.showa-u.ac.jp/~dent/dent_letter.html

に掲載いたしましたので、是非ご覧ください。また、別刷りは国際交流センターに保管をお願いいたしましたので、海外交流などの際にはお問い合わせいただき、是非ご利用下さい。英文広報委員:宮崎 隆(歯学部長)、井上 富雄(編集長)、Suzanne knowlton、堀田康弘、松田幸子、野中直子、坂井信裕、滝口 尚



CBT 問題作成ワークショップが開催されました

CBT 委員会 五十嵐 武

去る4月24日(土曜日)に旗の台校舎1号館5階のカンファレンスルームとPBL室にて、32名の参加者によるCTB問題作成ワークショップを開催しました。

当日は共用試験評価機構からタスクフォースとして松尾敬志教授(徳島大学)と河田英司教授(東京歯科大学)にお越いただき、はじめに共用試験CBTの概要と問題作成上の注意点についてご説明いただきました。その後、参加者は事前に作成してきた関連領域の問題を4つのグループに分かれて熱心に討論・修正し、その後の全体ブラッシュアップにより他グループならびにタスクフォースからの質問・指摘・指導を

受け、問題の作成方法を学びました。午前中はA問題(5肢択一)とW問題(2連問)、午後はL問題(多選択肢2連問)とQ問題(4連問)のブラッシュアップに取り組みました。今回は内容が豊富な上、初心者への参加が多く見受けられましたが、タスクフォースのご指導により何とか身のあるプロダクトに仕上げることができました。最後に井上教育委員長から参加者一人ひとりに修了証書が授与され、無事に終了いたしました。

今回のワークショップの経験をもとに各教室からより良い問題が提出され、採択率の向上に繋がることを期待いたします。歯学部教員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。また、ワークショップ開催に当たって事前準備にご尽力いただいた、和田さん(教務課)ならびに有本先生(口腔微生物学教室)に深く感謝いたします。

ベトナムで講演を行いました

顎口腔疾患制御外科学教室 新谷 悟

去る3月9日に、ベトナム社会主義共和国ハノイ市にある National school of Odonto-stomatology において招聘講演を行ってまいりました。

ベトナムでは、社会主義国であるということもあるのか、大学は色々な分野で一つずつ、国立大学があり、歯科に関しては Odonto-stomatology 歯科口腔科大学が唯一の教育機関でした。ベトナム歯科口腔科学会理事長の Trans Van Truong 教授や、歯科口腔科病院長 Trinh Dinh Hai 先生ともお会いでき、日越口腔科の発展に関してのできるだけ協力することを約束してきました。同病院には米国 Mayo Clinic からの手術チームが定期的に手術支援に来ており、アジアの日本としてより積極的な交流が必要と思われました。発展途上のベトナムではオートバイが主な交通手段であり、これに関係した顔面外傷症例が非常に多く、外傷病棟では、廊下にまでベッドが設置されて治療に追われていました。

大学で行った今回の講演は2時間を超えましたが、会場には100人を超える歯科医師、学生などが集まり、熱心に聴講していただきました。勉強に対し非常に熱心な国民性であると聞いていましたが、質問も多く、色々なことを学ぼうとする態度に関心いたしました。また、CAD/CAM も導入されているなど、思った以上に歯科医学のレベルが高いことも驚きでした。

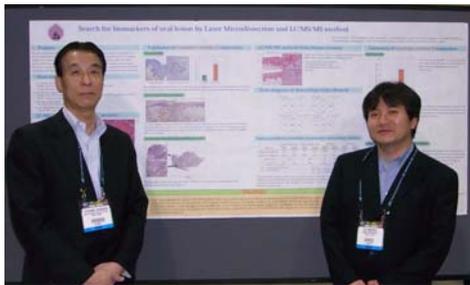


第101回アメリカ癌学会に参加しました

口腔病理学教室 山本 剛

4月17日から21日にかけてワシントンDCで開催された第101回アメリカ癌学会に参加させて頂きました。出発直前まで現地は不安定な気候であり、また出発日に日本は季節外れの雪が降ってしまいましたが、到着してからは気温20度前後の過ごしやすい陽気でした。学会会場はとても広く、大会期間中に毎日午前午後でポスターの張替えが行われます。半日で30以上のセッション、数百枚のポスターが掲示されますので、学会全体では数千枚のポスターが発表されており、興味のあるポスターを見るだけでもかなり大変です。それぞれのポスターの掲示時間が半日しか無い事も原因かと思いますが、活発な質疑応答が行われており様々な国の研究者から質問を受けました。アイスランドの火山の影響でヨーロッパからの参加者がほとんどなく、中国、インドをはじめとするアジアの研究者が非常に多かった印象があります。ワシントンはアメリカの首都ですが、人口は60万人程度で街中は道も広くのんびりした雰囲気とても過ごし易い場所です。見所も沢山ありますので、是非学会等で訪問されることをお勧めいたします。

このような素晴らしい機会を与えて下さった立川教授をはじめとする教室の先生方に心より感謝いたします。



行事予定

広報委員長 井上 富雄

- 6月 4日(金): D2防災訓練
- 6月19日(土): 父兄会総会
- 6月25日(金): 富士吉田寮祭
- 6月26日(土): 富士吉田寮祭・オープンキャンパス
- 7月 2日(金): 夏期スポーツ大会壮行会
- 7月 3日(土): 昭和歯学会
- 7月27日(火): 4学部オープンキャンパス
- 7月30・31日(金・土): 歯学教育者のための W/S

診療統計(平成22年4月分)

医事課課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	18,504	740.2	800.5	733.0
入院患者	468	15.6	16.1	14.2

第7回韓国障害者歯科学会(KADH2010)に参加しました

口腔衛生学教室 内海 明美

5月1日に、ソウル大学歯科病院講堂で開催されました。韓国での障害者歯科の歴史は浅く、第7回目となり、会員数は歯科医師が200名、歯科衛生士数がようやく100名を越えたそうです。学会のメインテーマは「寄付と援助は異なる。どのような支援が必要か皆で考えましょう」という日本とは違ったストレートなものでした。口演5題、ポスター発表26題(うち日本から10題)、そして自閉症をテーマとした国際シンポジウムが行われ、参加者数は約200名でした。自閉症を中心としたいわゆる発達障害への支援は日韓ともに大きな課題であることを再認識致しました。

KADH とは日本障害者歯科学会(JSDH)との国際学術交流アクションプランにより、交流が行われており、日本からは20数名が参加しました。本学からは3名でしたが、口腔衛生学の向井教授はJSDHの理事長として、弘中先生は国際障害者歯科学会(iADH)の評議員としてのお役目もあり、日韓両国の理事の先生方との韓国グルメ満載の会食会および懇親会は、味も中身も辛く濃いものでした。



昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

- 羽鳥 仁志 客員教授(顎口腔疾患制御外科学)
- 近藤 誠二 准教授(顎口腔疾患制御外科学)

認定士取得

広報委員長 井上 富雄

- 日本歯科技工学会認定士 鍛冶田忠彦
(中央技工室主任)

編集後記

口腔衛生学教室 弘中 祥司

GWも「あっ」という間に過ぎ去り、もう梅雨の時期となってしまいました。夏を想わせるような暑い日もありましたが、今年の梅雨はどうなるのでしょうか？

旗の台キャンパスの学生さんたちもGW明けから富士吉田帰りの、地に足がついていない感じがなくなり、見るからに「昭大生」という雰囲気が漂ってきました。部活も一所懸命に取り組んでいて、若者らしくて好感が持てます。夏の歯学体に向かって、学問とともに頑張ってもらいたいものです。

ところで梅雨時期に？と思われる方も多いでしょうが、都内のビアガーデンの多くは5月末よりオープンしています(もう行きました)。夏はもうすぐです。